

技術名称

「抑草効果を持つショートキープ液剤」

ショートキープ液剤とは？

抑草剤/農林水産省第19644号

雑草の草丈伸長を抑制する抑草剤で、本剤を使用する事で草刈作業を軽減することが可能です。

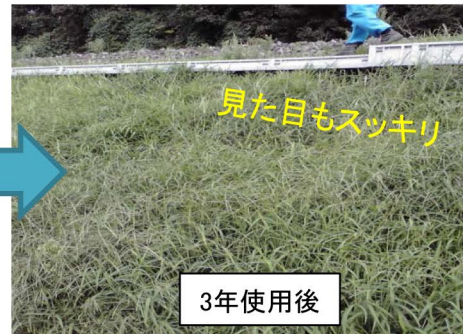
なお、一部の広葉雑草に対しては枯殺効果を発揮する為、連用施用することで下の写真の様なイネ科主体の植生に遷移させることが出来ます。



有効成分:ピスリバクナトリウム塩 3.0%
 毒性:普通物(毒劇物に該当しないものの通称)
 水産動植物に対する影響に該当なし
 有効数:3年



使用前



3年使用後

見た目もスッキリ

使用方法

適用場所	適用 雑草名	使用 目的	使用 時期	使用量	
				薬 量	希釈 水量
公園、庭園 堤とう、駐車場 道路、運動場 宅地、のり面 鉄道等	一年生 及び 多年生 雑草	草丈抑制 による 刈り取り 軽減	雑草生育期 又は刈取後 (草丈30cm50cm)	500～ 1000ml/10a	通常散布 100～200L 少量散布 25～50L/10a

※上記の他にクズ、ニセアカシア防除等の使用方法も御座います。ご興味のある方は弊社HPをご参考下さい。

ショートキープ液剤を使用した緑地管理

従来の機械除草作業と比較したメリット

- ①刈草の搬出や処分が削減され、作業工程が短縮
- ②機械除草よりも作業が容易な為、施工性が向上
- ③工程数短縮と施工性向上で作業人数と作業時間が短縮し経済性が向上

道路で!!
堤防で!!
公園で!!

お役に立ちます

従来技術(肩掛式機械除草)との比較

経済性

約80%向上

工程

約65%短縮

注意:新技術を活用した場合の一事例であり、現場条件、施工数量により費用が異なります。

詳細についてはNETISの掲載内容をご参照下さい。

現地実証試験

公益財団法人 日本植物調節剤研究会 研究所試験より
(2010年緑地管理研究会)

試験期間:2009年6月～12月 試験場所:鉄道法面(JR常磐線:茨城県牛久市)

試験規模:A区 約2,500㎡(1年目)、B区 約1,200㎡(3年目)

管理作業:2009年6月中旬 刈り込み ⇒7月7日、9月15日 薬剤処理

使用薬剤:ショートキープ液剤 0.7～1.0ml/㎡(水量:100ml/㎡)

散布器具:500ℓタンク+軽トラック+2.1mブームノズル

試験結果:

比較項目	ショートキープ液剤	機械除草
作業性 (面積:約4,500㎡)	作業員:3人 工程:2～3時間	作業員:6人 工程:6日間
抑制効果 (群落草丈、11月調査)	1.0m以下	2.5～2.7m
優先する草種	B区では草丈の低い 牧草類に遷移	セイバンモロシ、ススキ セイタカアワダチソウ等



散布時の状況



処理区の状況(2009年11月24日)

ショートキープ液剤の上手な使用方法

4月			5月			7月			8月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬

適期 最適期 適期

適期 最適期 適期

○雑草が生えそろっていない場合や、大きくなり過ぎた場合(草丈50cm以上)には十分な効果は期待できませんので、散布時期に注意して下さい。

○残効が無くなった場合、雑草再伸長初期に2回目の散布を実施して下さい。(約3ヶ月間隔)

○使用の際は商品ラベルの注意事項等をよく読んでご使用ください。



株式会社 理研グリーン

使用に関する詳細については担当の営業マンまでお問い合わせください。